

みちぼー&良ちゃんの 気儘な旅行記

アニョハセヨ!

釜山旅行 6/16~19

陶器市明けから計画してきた釜山旅行。5月中旬まずフェリーを予約し、釜山でのホテルはアクセスの良い釜山駅前の東横インに予約しました。釜山は10年前に西山峰次氏と2人で訪れているので懐かしくもあり、一度行っているので安心感の方



が大きいのですが、旅行に不慣れな老人だけの海外旅行?ともなると、安心と安全を重視した旅行を選ぶ方が重要なのだと自分に言い聞かせているものの、本当は不安を隠しての旅行なのです。(笑)

韓国とはいえ、海外旅行となると会話の心配があり、片ことはおろか全く韓国語が話せない老人2人が、添乗員のいるツアーでなくホントに大丈夫?と思いつながら、「アニョハセヨ」と「コムスマダ」だけで、あとは身振り手振りや老人力でカバーすれば良いのだと、思い切つて予約をしたのでした。

釜山までは博多から約200km、近くても外国なのでパスポートを早めに用意?もう子供の遠足並みのはしゃぎようです。

予約をしてからは天候が毎日気になり、天気予報とにらめっこの毎日でした。梅雨入りした後なので多少の雨は仕方ないと諦めながらもやは

編集

みちぼー

佐賀県西松浦郡有田町1-8-5

090-4740-4752

✉ michiboo3194@yahoo.co.jp

り気になる現地のお天気でしたが、週間ほど前から好天に転じ、晴れ男と晴れ女の実力が証明されて顔を見合わせながらニンマリ! 旅行の準備は週間前から徐々に始めるなど用意周到! パソコンで現地情報を収集しながら過ごしました。

6月16日、午前4時に起床! 老人は何事も早めに行動するに限る! と予定を30分早めて西九州自動車道で博多へ向かいました。都市高速から釜山に向かう「ニューかめりあ」が見えてきました。

博多港国際ターミナルに車を留め、カメラアラインのチェックインカウンターで手続きを済ませると、出国手続きまで約1時間の待ち時間です。周りを見渡すと韓国人客が殆どで、定刻になり出国の手続きが始まるといよいよ韓国へ渡るのだと実感が湧いてきました。



パスポートとチケットを準備し列に並ぶと、いよいよ日本を離れる時刻が迫っています。出国の手続きが終り乗船の時刻まで待合室で待機しました。アナウンスがあり乗船が開されると、タラップを渡り船内へ。船内で上の階を指示され予約した2等船室に辿り着きました。船室には3人の家族連れを含めた3組が入り総勢9人の賑やかな部屋になりました。

荷物を下ろし居場所を整えるとまず船内の確認と見学です。最初にデッキへの通路やトイレを確認し、各フロアの状況を見て回りました。船の中央には各デッキへの螺旋階段が設けられていて、一番下の階の中央にはエントランスインフォメーションがあり、すぐ横に食堂があり隣に自販機が並んでいました。自販機コーナーを覗いて見ると、ビールが格安で販売されていました。

フェリーの「ニューかめりあ」は、全長170㍎、巾24㍎、総トン数19961トンで博多港と釜山港を結ぶ国際定期航路として就航しています。ちなみに博多を昼の12時半に出港し釜山に夕方18時半に入港、帰路の釜山からは20時に出航し、博多には翌朝8時に入港します。つい最近まで就航していた高速船ビートルに比べ倍以上の時間がかかります。定刻通り船は博多港を離れ、釜山への旅が始まりました。



釜山⇄博多間に就航している「ニューかめりあ」

天候は上々波も穏やかで玄界灘を進みます。速度はいたってゆっくり約23ノット(約43キロメートル)で走行していて、波を切り開いて進むエンジン音だけが響いています。時折、船の前方にある展望室と客室を行ったり来たりして時間を潰しましたが、夕方6時頃には釜山港が見えてきて船内は下船の準備で慌ただしくなりました。

エントランスの出口付近は沢山のキャリーケースで埋まっています、我先にと下船を急ぐ客の荷物がひしめき合っています。アナウンスがあり下船口の扉が開くと一斉に客とキャリーケースが出入り口に吸い込まれて行きました。タラップを渡り釜山港での入国審査が始まると、韓国人は簡単な検査で足早に出口に進み、外国人である私たちは検査に時間がかかり、入国の審査に30分以上もかかりました。



釜山港大橋を望む

入国後は、今日の宿泊予定の東横イン釜山駅のホテルまで行かねばなりません。10年前の記憶を頼りにターミナルビルを出ると、肝心のホテルは見えません。スマホがインターネットに繋がらず、ホテルまでの道順がわかりません。

とにかく勘を頼りに歩き、通りかかった女性に家内が堂々と日本語で話しかけ(笑) 不思議と会話を通じ「こっちの方向!」と私たちを釜山駅まで連れて行ってくれました。感謝感激で私は「カムサハムニダ」を連発したのは言うまでもありません。後で確認すると約1500㍎以上も歩いて移動していました。

東横インホテルに到着しチェックインの手続きを始めるのと、ホテルの会員カードを忘れていたのに気が付きました! ホテルの両替機で2万円を韓国ウォンに替え、代金を支払ってようやく部屋へ入ることが出来ま



釜山駅前のホテル

した。しばらく部屋でくつろいだあとホテル前の釜山駅に向かい、駅ビルの肉のクッパの店に入りました。豚肉の入ったデジクッパと別のクッパをオーダーして初日の釜山での夕食でしたが、ホテルに戻ったとたん家内のお腹の具合が悪くなり、腹痛と下痢の後に手のしびれまで発症し、観光どころか病院に行くことにもなりかねない状態でした。

翌朝は6時に起床! 家内は腹痛も収まり、朝食はホテルでのバイキングを消化の良いものを選んで少しだけで済ませました。初日は家内の体調を考え近場で過ごすことにし、まずは滞在中に使用するお金を両替しなければならず、交換レートの良い西面(ソミョン)まで出掛けました。

西面は釜山駅から地下鉄で6つ目の駅です。地下鉄はほぼ駅員がいないので、切符は自販機で購入しなけ



西面の街中は意外と綺麗！

ればならず、韓国語なので間違えて改札を通ってしまい、一旦改札を出て目的の方向の改札に入るうとしたら今度はブザーが鳴り響き、改札が閉って通れなくなってしまい汗まみりになり慌てました。

どうか西面に着くとエスカレーターと階段で地上に出ました。周囲を見渡すと釜山とさほど変わらない感じで、駅から2分ほどの場所に両替所があるはずです。早速、事前の情報で探して見るのですが、さっぱり分からず随分探し回りました。

目に入った薬局に飛び込み「アニョハセヨ！」と笑顔で声をかけ、持参のプリントを見せやっつと辿り着きました。5万円を渡し韓国ウォンに交換してもらって468,500ウォンになり、何だか金持ちになったような気がしました(笑)

早速、西面近くの街なかを散策をしてみることにして、地下鉄の駅周辺を約1時間ほど歩き回りました。路地に入ると迷路みたいな場所に数多くの簡易食堂？が軒並みに並んでいて、地元の人たちが利用しているにしてもあまりにも多くの店の数に圧倒されました。

路地から街なかに出て散策を続けるとビルの谷間にLOTTEの文字が見えてきました。韓国にはLOTTEデパートが30店舗ほどあるようです。西面は釜山本店、9時半頃に入ったので開店前でしたが、最上階の飲食店と映画館が入っているフロアに上がると、広く清潔な印象を受けました。

西面の散策を終え、地下鉄で南圃駅まで移動しチャガルチ市場周辺を見て回りました。チャガルチ市場は韓国最大級の海産市場で、チャガルチ市場ビル周辺には数多くの露店や問屋街が並び観光地となっています。

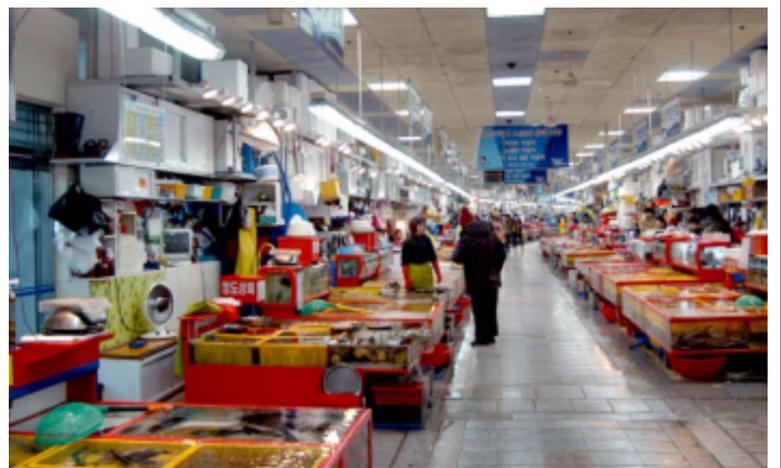


乾物の問屋街

10年前の記憶を辿りながら家内をエスコートしました。地下鉄の出口を出てすぐに海産物を扱う店が見えてきます。店には海苔や昆布、いりこ等が山積みになってスルメも吊るされていて、同じような店が軒並みに並んでいます。

チャガルチ市場はビルの中にあります。多くの出店には水槽が並び、魚やアワビ、カニ、うなぎなど元気に泳ぎ回っていて、ここでは新鮮な魚をその場で捌いて食べさせてくれるのです。店の人たちは私たちを見つけると盛んにアタックをしてくるので、「見るだけ！見るだけ！」と苦笑いで応じながら市場の中を見物して歩き回りました。

歩き疲れて、帰りはタクシーでホテルへ。しばらく休憩し釜山駅の向かい側で昼食のお店を探し歩き回る



チャガルチ市場は隙間なく店が並ぶ

こと1時間。ひと廻りして駅前の小さな店で石焼ビビンバと沸騰したカルビスープで腹ごしらえ。昼食後は南圃洞を再度訪れ、高麗人参が目にとまり購入しました。この春に40000円(300g入り)を9800円ほどで購入しましたが、釜山では半額以下の4000ウォンでGETできました。初日の釜山観光では約2万歩ほど歩き回り疲れ果て、LOTTEでお寿司とビールを購入しタクシーでホテルへ戻りました。8時頃に入浴を済ませ簡単な食事を終えると一日目が終わりボタンキューでした。



地下鉄で老圃へ

ホテル滞在の2日目の朝は6時半に起床！ 7時過ぎにホテルでのバイキングの朝食。前日とメニューが変わっていました。朝食が終ると家内の元気が戻り、計画通り通度寺の見物に出かけることにしました。ホテルでの2日目は10時までホテルをチェックアウトしなければならず、ひとまずホテルに荷物を預け2日目の観光に出掛けました。



東横インの朝食バイキング

地下鉄1号線で釜山駅から約40分ほどで終点の老圃駅に到着です。1号線は地上区間を多く走るのので、釜山旅行を初めて楽しむ家内に車窓からの様子を語りながら老圃に向かいました。車窓から幾つもの団地のビル群が立ち並び、次々に目に飛び込んできます。建物が密集して立ち並ぶ様子は、釜山周辺が起伏に富んでいて人口がとても多いのが容易に想像できます。韓国が想像以上に発展を遂げていて「有田とは違い過ぎる大都会じゃ〜！」驚きの連続でした。



終点の老圃（ノポ）には地方に向けた路線がいくつもある大きなバスターミナルがあり、ここから通度寺に直行バスで向かいます。チケットを購入し、バスターミナルを出発するとすぐに高速道路に入り、超スピードでどんどん車を追い越し、運ちゃんの荒い運転であつという間に通度寺バスターミナルに到着しました。ハラハラドキドキ緊張の30分間で



通度寺入口の大きな山門を見ながら脇を通り参道に入ると、大きな松が生い茂る参道が続きます。最初の大きな建物の博物館に辿り着くまで約30分ほど汗だくになりながら歩きました。山門から境内までは長い道のりなので長椅子が幾つも設置されています。参道2人が両手で抱えてやっと手が届くほどの巨大さで、

車窓からの風景を楽しむ余裕はありませんでした(笑)
通度寺は霊鷲山の南麓にあり、新羅の僧である慈蔵が唐で仏法修行して帰国した後、646年に善徳女王の命令により創建されたと伝えられています。2018年にユネスコ世界遺産に登録されていて、韓国仏教の最大宗派である曹溪宗のお寺です。

博物館に入りしてみると仏様の掛軸が正面に飾られていて、縦が約120cm、巾は約90cmもある大きな掛軸に目を奪われました。1767年代の貴重な仏教絵画とのこと。
博物館を通り「霊鷲山通度寺」の

樹齢長さを感じました。この日の天気は晴れで気温が高く汗をかきながらの散策になりましたが、「霊験あらたか」という言葉がピツタリな雰囲気漂っていて、参道には素足で歩く人が何人もおられました。素足で歩くことで通度寺の霊気を身体に取り込んでいられるのでしょうか。とても気持ち良さそうに歩いていました。



通度寺入口の山門



額のある一柱門（中心の柱が一直線上に並んでいる）をくぐり境内に入りました。高麗時代の1305年に作られた立派な門です。

境内の伽藍配置は金剛戒壇を頂点として下炉殿・中炉殿・上炉殿の三つの領域で構成されています。

途中の天王門には大きな木製の四天王像が奉安されていて、梵鐘樓には巨大な梵鐘が吊るされ、二階にも大きな太鼓が安置されていて歴史の重みに圧倒されました。

境内の一番奥まで進むと壮大な大雄殿がありました。「16世紀末の文禄・慶長の役で焼失し、1645



年(仁祖23年)に友雲という僧によって再建され現在の姿となった。正面の南側には金剛戒壇、東側には大雄殿、西側には大方廣殿、北側には寂滅寶宮と、それぞれ異なった扁額が掲げられている。金剛戒壇仏舎利塔に釈迦の身骨である舍利を奉安していることから大雄殿の中には仏像を奉安せず代わりに精巧で華麗な仏壇を造成して荘厳にしている。」と解説されています。大雄殿の後方には通度寺の中心となつている金剛戒壇仏舎利塔があり、慈蔵律師が唐から持ち帰った釈迦の頂骨舍利が奉安されていて国宝に指定されています。

いずれの伽藍も古く荘厳で長い年月



の重みを感じながら通度寺を後にしました。

通度寺の散策を終え山門近くで冷麺とマンドゥウ（餃子）の昼食を摂ったあと、釜山駅に向け帰路につきました。バスターミナルにはチケット売場がなく、老圃行のバスも何番の乗車口で乗れば良いのか分からず探している、50代くらいの男性が出発まで面倒を見てくれました。

バスが入って来る度に私がバスに駆け寄り「このバスは老圃へ行きますか？」と聞いてみると、その男性が「このバスは違う！違う！」と慌てた様子で駆け寄り、何度も世話を焼いてくれました。老夫婦が行先の違うバスに乗り込んでしまふんじゃないかと、余程心配になったのでしよう。おかげで老圃へ無事に戻ることが出来ました。地下鉄の老圃駅からは始発になるので安心して釜山駅に戻って来れました。



フェリーの出航時間まで釜山駅近くで過ごし、思い出をさらに詰め込もうと気温の高い中を散策して過ごしました。東横インホテルで荷物を受け取ると、釜山港国際旅客ターミナルビルまでタクシーで向かい出国時間まで待機しました。楽しかった釜山旅行もあと数時間で釜山を離れる時間です。釜山からの帰路の便は、出国審査のために夕方5時頃には博多に向かう旅客で賑わい始めました。乗船手続きまで約3時間ほどターミナルビルで過ごしました。

搭乗口前にはキャリーケースが我先に並び、入場時刻になるとフェリーまでの長い通路を歩きます。一番前に並んで待っていた老人二人は、フェリーに到着する間に後から並んだ乗客にどんどん追い越されて、それまで何のために並んでいたのかと2人で顔を見合わせました。



なかなか出航しないフェリー

8時には乗船が終わりすぐ出航すると思っていました。中々動かず離岸したのは10時過ぎフェリーは博多に向けゆっくり港を後にしました。博多では入国することになるので、早く着いても税関の職員が出勤する8時までは上陸が出来ない訳です。船内でゆっくり過ごしながら下船の案内を待つこととなります。

5時過ぎに目が醒めるとフェリーは博多に着いています。6時頃から接岸作業が始まり、7時半に下船し3泊4日の釜山旅行からようやく帰還しました。

今回の釜山旅行前にはスマホに「翻訳アプリ」をインストールして、会話の壁を乗り越えるための万全の準備をしていました。音声で入力し、音声で相手に伝えます。事前に想定

問答を練習するという用意周到の準備はすべて吹っ飛んでしまいました。地図を検索するGoogleマップも勿論使えませんでした。持参したノートパソコンがホテルで使用でき、辛うじてパニックから逃れることが出来ました。

釜山のホテル内はWi-Fiが利用できて不自由なく使えていたのですが、ホテルから一歩外に出るとスマホは全く機能せず、肝心の翻訳アプリが使えないばかりか、インターネットに繋がらない想定外の事態になりました。帰宅後、スマホの契約先に問い合わせしてみると「海外では利用出来ません。海外で使うには現地SIMカードを購入して差し替えて利用して下さい。」とのこと。もう少し慎重に調べておけば良かったと、少々後悔の残る旅行になりました。



アニョハセヨ! ソウル旅行2/17~19

6月の釜山旅行で弾みがつき、5カ月ぶりの韓国旅行。今回はソウルへ行ってきました。この歳になると思い立ったら即実行しないと「そのうちには！」は来ないのです。(笑)

2022年7月の心肺停止から生還して以来、生かされているうちに何事も実行する！と決めて楽しみは先送りしないよう心掛けています。

釜山旅行から帰り、今年中にもう一度韓国に行こうと私は密かに決めていました。家内の足腰の具合を見計らっておりましたが、秋になり体調が回復したのを見逃さず、良い頃合いと急いで準備を進めました。

我が家は夫婦共に十数年前から韓国ドラマにはまってしまい、「イ・サン」や「トンイ」をはじめ多くの歴史ドラマを見ってきました。昔の宮廷や城門が幾度も登場するドラマのストーリーはほぼ忘れませんが(笑)、それでも朝鮮王朝時代の史跡を一度はこの目で見てみたいと以前から思ってきたので、今回その思いが叶うことになりました。

計画の中心であるソウル駅にほど近い場所にある景福宮(キョングン)や昌徳宮(チャンドクン)・昌慶宮(チャンギョングン)が今回のメインでした。景福宮・昌徳宮・昌慶宮は旧朝鮮王朝時代の王宮と離宮で、とくに景福宮は1395年に建設されましたが1592年の文禄の役で焼失し、現在の建物は1867年に再建され今日に至っています。離宮の昌徳宮はユネスコ世界遺産に登録されています。



韓国ドラマ時代劇に魅了されて.....

当初は、自宅から車で福岡に向かう予定で計画をしていましたが、高齢である私の運転に不安な家内は車で行くかと主張し、意見が対立しました。そんな折に史談会の馬場さんと話をする機会があり、「福岡には高速バスが便利ですよ！」とのアドバイスをもらい、早速予約（インターネット）で予約しました。

最初に航空券を予約し、そのあとはホテルの予約です。ソウル駅近くの東横インを探しましたが全て満室になっていて、止む無くソウル駅から電車で約1時間離れた東横イン富平を予約しました。釜山で東横インホテルに宿泊したことから、日本語に堪能なスタッフがいることと朝食が摂れるという単純な理由が高齢の私

予約商品名 エアソウル 釜山手荷物15kg込み ¥57,420.-

利用日 2025/11/17 (日本発)・2025/11/20 (韓国発) 発行番号 AF25101903228

航空チケットGET

運賃スケジュール
※下記発着時刻は全て現地時刻です。
※下記発着時刻などの詳細情報は航空会社の都合により予告なく変更になる場合があります。

| 日付 | 出発時刻 | 到着時刻 | スケジュール |
|------------|-------------------|-------|--|
| 2025/11/17 | 09:50 (空港係立時刻) | | 福岡空港、エアソウルカウンターにて、ご自身でチェックインしてください。 |
| 2025/11/17 | 11:50 | 13:20 | R5724 福岡(福岡空港)→ソウル(仁川国際空港) エコノミー / 経由なし / 1時間35分 |
| 2025/11/20 | 14:25 | 15:55 | R5727 ソウル(仁川国際空港)→福岡(福岡空港) エコノミー / 経由なし / 1時間30分 |



11/17・18・19
W247,950.-

釜山駅前店

たち夫婦には重要な事で、朝から朝食のために店を探し回る心配は無用なのですから。

10月19日に航空券とホテルの予約が完了した直後からは、11月の旅行に備えスケジュールの検討を始め些細なこともメモに留めておきました。

6月の釜山旅行ではスマホが使えなかったことから、その失敗を活かして今回はesimを事前に購入して備えることにしました。スマホに入っているsimカードとesimの違いを学習し、今回はesimの使用を決めAmazonで購入して事前に準備しました。

旅行会社のツアーに付いて行く旅行と違い、全て自分で現地情報も調べなければなりません。仁川空港について、東横イン富平とその周辺について、ソウル駅と駅周辺についてなどなど。地下鉄については路線の

ほか乗り換え情報も必要です。企画から添乗員までこなすツアーコンダクターのような作業を行うのですから大変ですがそれも楽しみの一つで、旅行に出発する直前まで過ごします。今回はスマホを使えないときのために「ここに行きたい！」と行きたい場所を韓国語で書いたプリントを用意しました。

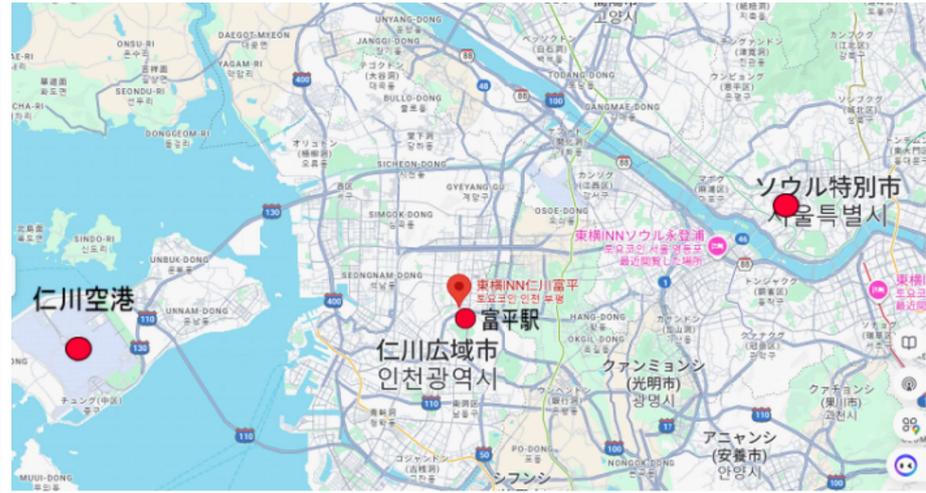
こうして旅行当日を迎えました。1時に起床し6時には朝食を済ませ、1時に車で自宅を出発し波佐見有田の駐車場へ。7時半、高速バスに乗り込み福岡空港国際線ターミナルに向かうのです。スマホの繋がりが悪くweb乗車券がスマホに表示されずスタート時点から焦りました。

30分ほど遅れてターミナルに着し、急いでチェックインカウンターに向かうと11時50分の出発が午後1時に遅延になっていて、約2時間空港に足止めをくいました。たまたまHISのカウンターが目だったので事情を聞きに行くと、何と10数年前にNPOあったまち・どっとこむに在籍していた折のメンバーと遭遇、懐かしく話をする事が出来ました。当初の予定から二度の遅延で出発することになりましたが、良い具合に時間つぶしが出来ました。帰国後に知っ

たのですがエアソウルは遅延率第一位にランクされるとのこと納得しました。そういう訳で福岡空港で出発まで4時間過ごしました。

12時にチェックインが開始され、手荷物を預けると出国にむけ審査があり搭乗口まで歩きます。格安航空券をGETしたせいか搭乗口までが遠いこと！

朝が早かったせいか11時過ぎて

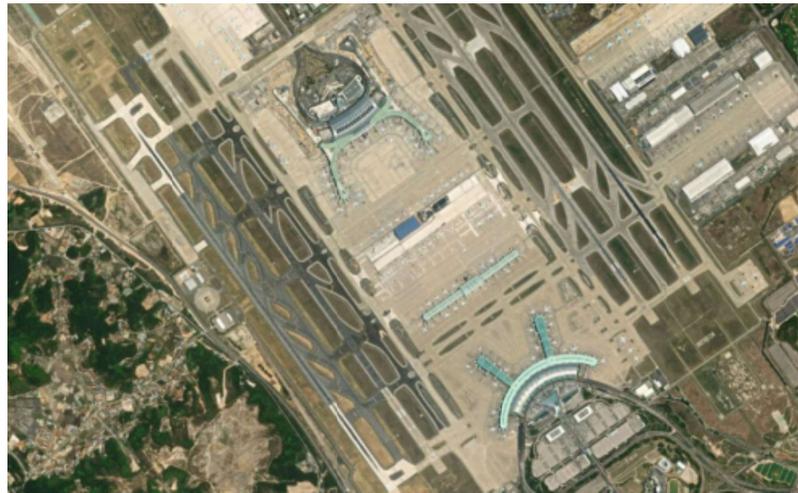


お腹が空いてきたので、うどんとおにぎりで簡単に済ませて搭乗まで待ちました。12...35に搭乗が始まり指定席に座ると、外ではエンジン音が高まりメインの滑走路に向け移動がゆっくり始まりました。機体が大きく回転し、エンジン音がさらに上がると身体に強い圧力がかかります。始め、スピードが徐々に上がります。満席の乗客を乗せた重い機体は滑走路から離れ上昇を続けます。こうして定刻の13...00にテイクオフ！ソウルに向け飛び立ちました。



14...30仁川国際空港第二ターミナルに到着しました。事前の下調べでは、仁川国際空港はデカイ！第一と第二のターミナルビルの間は約3百離れています。

仁川国際空港は首都ソウルから西に約49百の場所にあり、永宗島と龍遊島の間を埋め立てて建設された韓国最大の空港で、おもに大韓航空やアジアナ航空、チェジュ航空などを中心としたアジアのハブ空港として機能しています。



空港に到着すると早速入国審査を済ませ、手荷物受け取り場所のターミナルビルに並びましたが預けたポストンバッグが出て来ず、最後まで待ち続けました。荷物が無くなったと一瞬パニックになり焦りました。係員に訪ねると別の場所にポツンとマイバッグが置かれているではありませんか。安堵して胸を撫で下ろしました。荷物を受け取りターミナルビルから地下鉄乗り場へ移動しましたが、そう簡単な移動ではありません。なんせ初めてのソウル旅行なのです。案内板は大体ハングルで書かれています。英語の表記もあるのですがやや安心です。とはいえ仁川空港からホテルのある富平駅へ向かうのに約50分ほどかかり、途中に乗り換えがあるので要注意です。サブウェイ、サブウェイと何度も呪文のように唱えながら第二ターミナル駅の乗り場を目指しました。

地下鉄の場所が分かり安心するのもつかの間、券売機の使い方を理解するのにまたもやあたふたする始末！

実は出発前にソウル地下鉄アプリ (Subway Korea) をスマホにダウンロードしておいたので大丈夫と安心していました。しかしソウル到着の一日目はe-simが働かなくてスマホが

使えず仕舞いでした。そんなこともあるうかと、事前に想定して地下鉄路線図をプリントして持参していたので、移動には大いに役立ちました。片言の英語とプリントを頼りに若い人に尋ねながら、何とか乗り継いで目的のプピョン (富平) 駅に辿り着きました。プピョンに着いたもの地上に出るエレベーターで汗だくなりながら何度も行ったり来たりしました。出口が解らず困っている老人二人を気の毒に思ったに違いない親切なご夫婦が、出口に向かう改札口まで案内してくれて、体中汗だくなりながら駅前広場に出ることが出来ました。

駅前に出れば東横インホテルは駅のそばなのですぐ分かります。勿論、事前にgoogleマップで確認していたのですぐ見つけることが出来ました。



富平駅前の東横イン

フライトが二度も遅延したおかげでホテルへのチェックイン予定が2時間以上も遅れることになりました。取り敢えずホテルに備え付けの両替機で日本円を韓国ウォンに替え無事に支払いを済ませ、13階のツインルームに落ち着くことが出来ました。時間16:00を回っていてさすがの富平駅地下街でメニューにないマッコリをオーダーすると、気が利くママさんがすぐにどこからか笑顔で持ってきてくれ、石焼ビビンバとナムルやキムチで夕食を済ませました。旅行一日目の夕食は豪華とは程遠いものになりましたが空腹のおなかをしつかり満たしました。

目はスマホは使えず、就寝前まで持参したノートパソコンを使いながら販売元のTTCで指示を受け、設定画面のスクリーンショットを何度か送りながらという悪戦苦闘を経てesimが開通！ 10時半過ぎに就寝しましたが、旅先に来てまで何をやっているんだろうと思わず含み笑いをしてしまいました(笑)

2日目の朝は7時からの朝食バイキングに備えて6時に起床しました。東横インは釜山旅行でも利用しているので、同じ韓国内であり同じようなメニューが出てくるだろうと考えながら2F食堂のフロアーへ向かいました。朝食はバイキングでご飯おみそ汁のほか10種類ほどの総菜が用意されていました。勿論キムチや韓国のりもあり、パンも準備され洋食もOKです。ジュースやコーヒーもあるので朝からお店を探す心配がないのは大助かりです。プピョン駅へ急ぐ通勤の人たちが通る道路を眺めながら朝食をとりました。周りの人たちは殆ど韓国人と思われず。トレーに山盛り運んで人を見つけましたが驚きました。後で解ったことですが東横インは食事を部屋に持ち帰って食べてもOKらしく、コーヒーなど持って自室に帰る人を見かけます。



ゆっくり朝食を済ませて部屋に戻ると早々に出発です。宿泊したホテルはソウル駅から20分以上離れているので、目的の場所までスムーズに行けたとしても「時間はかかりました。初めて訪れるソウルで老夫婦がまともに移動するなど出来るわけがないのです(笑) 先ず目的の駅までのチケットを購入しなければなりません。チケットの販売機は日本語の表記があるのですが、購入するのに何度もやり直す羽目になりました。気が付いたのですが料金には保証金も含まれ、下車の折に払い戻し機で清算をすることにになります。チャット面倒



ですが戻ってくるのと何だか得した気分になります。さらに乗車前に目的の駅まで幾つ目なのかを確認しながら電車に乗り込み、車内では流れてくるアナウンスを聞き逃さないよう注意しながら目的のソウル駅を目指しました。

ソウル駅で一旦下車し、駅前まで出てみようと考えていましたが、迷子になりそうと諦め、下車せずそのままソウル駅で乗り換え3つ目の鐘路3街駅(チョンノサムガ)まで行って下車しました。



地上に出て宗廟(チョンミョ)を目指しましたが、入口に辿り着いたもののこの日は休業日でガツカリ! 仕方なく宗廟から約1百北に位置する昌徳宮(チャンドクグン)と昌慶宮(チャンギョングン)を目指すこととして宗廟公園の外側の塀沿いを歩きました。昌徳宮の入口まで辿りながら歩き疲れてしまい、丁度目の前に趣のある韓家の喫茶店が目飛び込みコーヒーとケーキで30分以上休憩しました。 たまたま入ったお店は由緒ある建物のように、韓家の中庭に見学の子供たちの姿を見

つけました。何だか見学中のようでしたので私も中庭に入ってみると、何と韓国伝統音楽を演じるソウルトンファムン(敦化門)国楽堂が地下に併設されていました。今回はスルーしました。
飲み物とケーキでお腹を満たし、昌徳宮に向かいました。昌徳宮入口のチケット売場でパスポートを提示すると65歳以上は何と無料とのこと。高齢を喜ぶべきなのか(笑)2人で6000ウォンがタダになりました。(、♪

世界遺産に登録されている昌徳宮に入ると、事前に情報で得ていたものの実際に足を踏み入れると思っていた以上に広い! 広すぎる! 随所に歴史の重みを感じながら散策しました。訪れた日は気温が下がりが寒かったのですが、紅葉が美しく良い時期に来たことを二人で喜び合いました。

話は脱線して韓国ドラマ「イ・サン」へ。

李氏朝鮮22代王である正祖イ・サンの生き様を垣間見れる歴史時代劇ドラマですが、会報第5号に当時九州陶磁文化館の家田淳一副館長に講演頂いた「有田焼の朝鮮輸出」として掲載しましたが、覚えておられませんか?

こんなことを書いていました。

二〇〇七年当時韓国ドラマ「イ・サン」がテレビで放映され大きな反響を呼んでいた。このドラマは名君とうたわれた朝鮮第二十二代王・正祖の波乱に満ちた生涯を描いた時代劇で、イ・サンとソンのラブ・ストーリーも盛り込まれており人気を博した。このドラマに登場するイ・サンの側室となるウォンビンが急逝し、のちに陵の調査が行われた際に磁器



製副葬品が公開され、五個の有田焼の小壺と合子があった話など興味の尽きない講義となった。

ちなみに李氏朝鮮王朝は1392〜1910年まで続いた朝鮮半島の最後の統一王朝で、27人の王が在位しており、今回の見学した昌徳宮や昌慶宮は王朝時代の歴史がくり広げられた場所そのものなのです。また景福宮が文禄の役で焼失したため、再建されるまで270年あまり昌徳宮が正宮として使用されて来たよう



です。
冒頭にも触れましたが、離宮の昌徳宮はユネスコ世界遺産に登録されて、首都ソウルの中心部に4万3千平方メートルもの敷地を有し、韓国旅行で必ず訪れたいモニュメントの一つに上げられていて、風水地理学に基づいて配置された3棟の宮殿と、自然と調和した見事な庭園を是非見ようと計画していました。

昌徳宮は、李氏朝鮮時代を舞台とした韓国時代劇ドラマによく登場しますが、2003年に放映された宮廷の女官が努力と機転でさまざまな



困難を乗り越えて幸せになる名作ドラマ『宮廷女官チャングムの誓い』が社会現象とも言えるブームになったので皆さんの中にもご覧になった方が居られると思います。ちなみにドラマや映画の撮影の場合、一部の宮殿によっては国家遺産庁の許可が必要になっています。

昌徳宮に入りまず最初に驚いたのは韓服姿の観光客が目立ったことです。王や王妃の韓服を纏ったカップルが記念写真に収まっています。見学というより写真撮影に来ているのではと思うくらい撮影に夢中で、見



昌徳宮の正門である敦化門（トンファムン）

学は二の次と思われました。韓服を着て入場すると入場料は無料らしく、韓服を着ているカップルの多さに驚きました。そんな光景を横目で見ながら宮廷内を散策しました。昌徳宮の正門である敦化門（トンファムン）は1412年に建造され、現在の建物は1609年に再建されていて、現存する韓国の門の中で最古の門と言われています。しかし今回は工事中で敦化門をくぐることは出来ませんでした。

仁政門をくぐると正面に本殿が現



昌徳宮の正殿（仁政殿）

われます。昌徳宮の本殿である仁政殿です。建物は重層入母屋造りの構造になっていて、2階建で中は吹き抜けになっています。中央の奥に威厳に満ちた王座があります。多くの時代劇のロケに使用されていて、初めて目の当たりにして圧倒されました。

広い宮廷内は多くの建物が連なり、邸内の庭園には大きい池があり、周囲には季節ごとに実や花が咲き乱れることだろうと思いを馳せました。広い邸内のすべてが素晴らしく歴史の重みを感じながらの散策を楽しみました。王宮なので落ち着いた雰囲気

気は良かったのですが韓服を着たカップルやグループが否応にも目に付き、一種のイベントの中に入り込んだような錯覚に陥り、観光地化されているのもちよっぴり残念な気持ちにさせられました。昌徳宮を散策した後同じ邸内に建てられている昌慶宮も合せて巡りました。一日では回り切れない広さの宮廷内を後にして、落葉したイチョウの葉で埋め尽くされた街路を、老夫婦の私たちは手をつないで（迷子防止）疲れた足を引きずりながら地下鉄の駅まで歩きました。

地下鉄の鐘路3街駅チヨンノサムガに着き、富平までの切符を購入し地下鉄でホテルまで帰ります。地下鉄はシルバシートが用意されているので、出来るだけ杖を着いた高齢者マークのある位置に並び電車を待ちます。後期高齢者ともなれば電車に乗り、立ったままでの移動はきついで空席が頼りです。シルバシートシルバーシートの空席を見つければ一安心。約1時間の移動ですがソウル駅で乗り換えがあるので、間違わずに乗り換えが出来るか少々心配と緊張をしながら移動し、何とか乗り換えが出来て無事に富平に辿り着きました。2日目の観光は歩きくたびれたので、早めに夕食を済ませ翌日に備えました。



3日目は6時頃に目醒め、元気に朝を迎えました。この日は早めに朝食に向かいましたが、10分以上も前から食堂に並んで待っている客がいて驚きました。7時になるとスタッフが一列に並び朝の挨拶が終わると朝食のスタートです。連泊でも前日とメニューは変わっていて美味しく頂きました。

朝食後は早めにホテルを出て、昨日と同じコースでソウル駅に向かいます。ソウル駅からは二度乗り換えで、今日は景福宮（キョンボックン）へ出かけます。景福宮の正殿であ



景福宮の正門 光化門（クアンファムン）

る勤政殿が今日のメインです。ちなみに景福宮の勤政殿と慶会楼は国宝に指定されていて一番楽しみにしていました。

景福宮は1395年、太祖・李成桂（イ・ソンゲ）によって新しい朝鮮王朝の王宮として建てられました。景福宮は王宮の中でも最大の規模と建築美を誇り、勤政殿で王の即位式が行われてきました。景福宮は壬辰倭乱（文祿・慶長の役）の時に相当数の建物が焼失するという過去があり、第26代王高宗の時代になって興宣大院君の主導の下、約7700

間に及ぶ建物が再建されましたが、明成皇后殺害事件が起こり、王朝の没落とともに景福宮も王宮としての機能を失ったようです。

地下鉄の景福宮の駅の改札口を出ると、長い地下の通路を歩き地上に出ました。地上に出て目に飛び込んで来たのは光化門（クアンファムン）です。光化門は景福宮の正門として建設され、何度かの焼失、移動、復元を経て、現在の光化門は1968



「勤政門」奥に正殿の勤政殿が見える



景福宮勤政殿の中央に王座がある

年に鉄筋コンクリートで移築、再建されたものですが迫力は十分です。これからの長時間の散策に備え、まずトイレ探しです。広い宮廷内には目立たない場所にトイレが作られていて、結構離れた場所まで歩かねばなりません。

光化門の向い側の興礼門と勤政門を通り抜けると、正面に重厚で威厳のある勤政殿が迫力満点に出迎えます。勤政殿は朝鮮王朝を代表する景福宮の正殿で、文武百官からの朝賀を含んだ国家の大きな儀式を挙行したり外国からの使臣の接待など正殿と法殿を兼ねる。勤政殿の内部中央



王座の屏風絵「日月五峰図」

に金龍に縁どられた朱色の王座があり、後ろに「日月五峰図」の屏風絵が飾られ威厳が備わっています。

勤政殿の西側には、池の中に建つ48本の石柱を持つ慶会楼（国宝）が美しい姿を見せています。1412年朝鮮第3代王・太宗の時代に創建され、1867年高宗の時代に再建されています。国の慶事や外国使節の接待など、国家の威信を示す場として使われています。

慶会楼は、「政治・外交・美意識・自然観」が一つに結晶した、朝鮮王朝の精神そのものと言える建築です。

ソウル旅行3日目のこの日は、明日の帰国を考えてやや控えめに散策し体力の温存に努めました。

最後に国立古宮博物館に入館し、



朝鮮王朝時代の国王の御座や宝物の金印、衣装などを鑑賞しました。



勤政殿西側の慶会楼（国宝）

早めに地下鉄景福宮駅から電車を乗り継ぎ、滞在中の東横インのある富平へ移動し、富平市場の見学に向かいました。富平からは仁川1号線に乗り換え次の富平市場駅で下車します。

駅を出てすぐに通りすがりの女性に富平市場を尋ねると、市場方向を指さしてお教えてくれました。コマスマダ！と笑顔で挨拶し市場を探しながら歩きました。買い物客のいそがしい通路を進んで行くと、この場所一帯が市場なのだ気が付きました。

農水産物のほか加工品を販売する店も軒並みです。雑貨を扱う店もあります。店の数は数百軒以上はあるでしょうか？ ソウル近郊で50万人以上の人が住むベッドタウンは、需要を満たす店の数が半端ない。碁盤のように区切られた市場の中は小さな店がひしめき合っ立ち並んでいて、畑から収穫したばかりの野菜や、水揚げされたばかりの魚介類が所狭しと並んでいる。カワハギの乾物と韓国ノリを自宅用に購入した。韓国ノリは日本のノリに比べ薄く作られているが味は濃厚で美味しい。露店に並ぶ出来立ての揚げ物を買って空腹の足しにして、今日の昼食はこれでおしまい！



富平駅の周辺散策ですれ違ったミルク販売車

しばらく歩き回り市場から何とか抜け出ることが出来ました。通りで流しのタクシーを止め宿泊のホテルに向かいました。明日の帰国に備え今夜は早めに夕食を摂ることにして、駅ビルのロッテマートにて買い物し、ホテルでの食事になりました。勿論マッコリを購入したのは言うまでもありません(笑) マッコリと韓国の巻寿司(キンパ)でお腹も満たされ、最終日の夜は早めに入浴を済ませボタンキュー!でした。

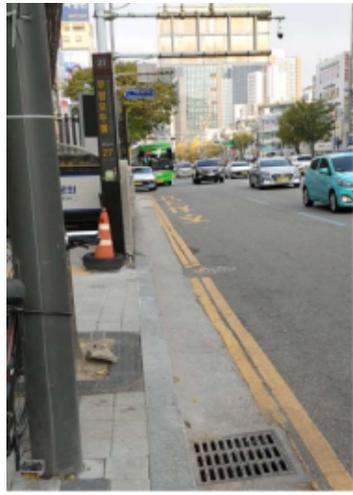
あつという間にソウル旅行が終わり帰国の朝を迎えました。6時頃には荷物の整理を済ませました。ボストンバッグはぎゅうぎゅう詰め!背に負うリュックにはノートパソコンと少量のお土産を入れたらこちらも満タン! 7時には朝食に並んで一番乗りで朝食を済ませると、ホテル周辺の散策に出掛けました。

約1時間ほど歩き回り、富平駅から仁川空港へ少し早めの移動です。途中で何が起こるか分からない老人二人の旅行ですから、時間には十分すぎる余裕が必要です。

仁川空港第二ターミナルビルに到着。エアソウルのチェックインカウンターで荷物を預け、案内通りに出国検査に向かいました。多くの旅客で混雑している列に並び、いよいよ検査直前になりパスポートを出すと、いきなり「こちらではありません!向こうです!」と隣のゲートを指さすではありませんか! 間違いない! このゲートを指定され並んだのに!隣のゲートと言ってもかなりの距離があります。老人二人仕方なくとぼとぼ歩くしかありません。

しかもハラが立つのは、ついさっきスターバックスに立ち寄り、朝の

散策で購入しておいたパンとコーヒーでお昼を済ませて、機内で飲むと大事に持ってきたスタバのコーヒートリュックのペットボトルが出国検査で没収されてしまったのです。がっくり肩を落としながら検査場を出るはめになりました。気を取り戻し、フライト予定の搭乗口まで遠い通路



をへトへトになりながら歩きました。

搭乗口に辿り着き約30分程待ちました。搭乗のアナウンスが始まり、チケットを片手に機内へ。機内の中ほどまで歩き予約席に収まりました。LCCの機内は狭いのですが1時間半の辛抱です。LCCは「Low Cost Carrier」の頭文字をとったもので、格安航空会社とも呼ばれ、ANA&JALなど既存の航空会社の「Full Service Carrier」とは違いますが安いのが魅力です。

福岡空港に着くまで身動きが制限されましたが無事にフライトを終え日本に帰ってきました。手荷物を受け取り、入国審査用の小さな書類に土産等の違反がないことを記入し、係官に手渡し無事に開放されました。

福岡空港からは高速バスで波佐見有田へ移動します。1時間以上の待ち時間があり、少々バスは遅れましたが無事に有田に戻りました。老夫婦の3泊4日のソウル旅行は、冷や汗かきつつも思い出に残る楽しい旅になりました。

